

=====

# 美高からトータル・サティスファクションの 実現を目指して

=====校長室より

今年度は、事務職員、非常勤講師の先生方も含めて、総勢 100 名を超える体制で、新しい学校づくりに邁進してまいります。どうかよろしく願いいたします。

私個人としては、校長として 6 年目、美鈴が丘高校校長としては 3 年目を迎え、いよいよ「勝負の年度」と位置付けて、強く自分を出して前に進めていく覚悟を決めています。この校長通信も、今までのものとは少し味付けを変えて発行していこうと考えておりますので、ぜひご覧ください。なお、小 3 から始めたサッカーネタが多いことはご容赦ください。

## 第 1 号 「森保ジャパンに思うこと」

森保 一さん。3 月のサッカー日本代表の戦いぶりは世界にも大きく報道され、皆さんもよくご存知のことと思います。私は国の代表監督という仕事に就いたことはもちろんありませんが、案外損な役回りなのではないかともあります。普通にやっているだけではだめで、負ければ日本中から批判される。これが続けば、マスコミから解任論の浮上。孤独で相当のプレッシャーの中での仕事ですよね。しかし、国の威信を背負っての戦いに対して、自分なりの決断をもってチームとして挑んでいけるというこの仕事は、おそらくこれ以上ないやりがいを感じるものなのでしょう。

森保さんとはレベルの差こそあれ、実は私も今年度これに似たワクワク感をもって挑むことができます。4 月 1 日には、先生方自らが主体性を発揮して、私に「どうしたらいいでしょうか」と訊くのではなく、「こうしようと思います」という姿勢をもって提案してもらい、その上でチームとして全体が動くことをお願いしました。今は実際にその動きが出てきています。また、入学式で迎えた一年生には、「一度しかない自分の人生で何を成し遂げたいのか？」を考えて行動するよう促しました。そして二、三年生も揃う始業式では、「新しいことに挑戦する」ことを求め、小さなことでもまず行動する習慣が自分の人生を決めていくということを伝えました。結局、何も自分で決められずに立ち止まっているよりも、何かを信じて自分で決断し、飛び込んだ方が必ずいい結果につながる。このことを本校のすべての方にまずは理解してもらおうことが私の意図でした。



今年度は、本校の実情を踏まえて登下校時の自転車のヘルメットの着用を校則化しました。各方面から様々なご意見を頂戴する場面もありました。しかし、「命・法律・人権」を守るという本校の原理原則に基いて実施に踏み切った結果、保護者や生徒の皆さんには理解してもらい、現在注文したものが届いていない生徒を除き、全体の 9 割以上の着用が実現できています。車のシートベルト着用のように、これが、ルールとして定着する、というよりも「文化」として根付く、ということを心から願っています。

高い山ほど、絶景が待っている。これは私の好きな言葉です。自分がやったことのないことや先例のないことにチャレンジするのは勇気が必要となります。自分の直感に耳を傾けて、時にはそれを信じて果敢に行動する。そういうことの積み重ねが自身の高いキャリアとなります。このことを、これからの人生の扉を開く生徒へ、私を含めすべての教職員がその姿で伝えていくものだと考えています。